



過去から吹く風

大和茂

もし僕があのだをあるいていたならば
草の感触をわかっていただろう

もし僕があのだをながめていたならば
風の運んだにおいに気付いただろう

もし僕が人ならば
お礼を言っていただろう

道はたくさんある

道しるべにはたよらない

迷ったときこそなじむことができるから

うしろをみでは歩けない

したを向いては歩けない

前を向いて進む

たまには走ってもいい

たまには後ろをふりかえってもいい

水の浅い川を深いだろうとおそれて

それには近寄らず

水の深い川を浅いだろうとかんがえて

何におぼれるのか

みえているものをみようともしないで
みえるはずのないものを追いつけて
夢はおぼれる

愚かなものを ただ愚かだとかんじて

自分を愚かだとみないなら

愚かさはすべて自分に住んでいる

自分の世界がせまいと感じたとき

気持ちをていねいに扱えば

きっと、世界はひろがる

君は僕より優れてる

いいところいっぱい隠れてる

君は僕のことどうみてる？

僕にもいいところあるだろう？

夢みる少年と僕

何が違うんだろう

何が増えたんだろう

何が減ったんだろう

何が見えないんだろう

僕が発したことは

時間の風に乗って...

めぐりめぐってかえってくる

いい言葉からチャンスが生まれ

勝手な言葉から理不尽が生まれる

苦しさから逃れて・・・

どこへいくのだろう

やさしさからはなれて・・・

素直になるだろうか

落ちそうになって

落ちないでいる

つまずきそうで

転ばないでいる

そんな人だから

そんな道だから

歩こうよ

歴史をつくった人たち

ちいさな歴史をつくった人たち

もっとちいさな歴史をつくった人たち

みんなが、いまをつなげている

すべてが、いまにつながっている